

三杉和章・杉田暉道共編

『横浜と医学の歴史』

横浜の医学史を扱ったユニークな単行書が刊行された。横浜市立大名普教授の三杉氏と、同大医学部で長く教鞭をとられた仏教医学でおなじみの杉田氏の共同編集にかかる労作である。

編者執筆の「はじめに」によれば、本書は同市大が一般教育の主要カリキュラムとして行っている十五余りの総合講義の記録を順次刊行しつつある「一般教育のひろば」シリーズの十二冊目だという。

編集にあたって討議するうちに、単なる記録としてではなく、日本の近代医学の歴史の中で横浜が果たして来た役割に視点を置いてまとめたほうが、横浜市大が刊行する本としての特色が出せるだろう、という考えに変って、執筆者総数十五人を越える本書ができたというこのようである。

本書は約三百頁を四章に分けている。「横浜と近代医学の受け入れ」・「横浜の医療史」・「横浜の医療と市立大学」・「医学史紹介―横浜の医学史を知るために」の各章である。

日本第二の都市として今も日々変貌を遂げつつある横浜市が、医学を含む日本文明史の上で過去に迎えた第一のピーク

が、開港後の一時期にあったことは疑うべくもない。この意味で総頁数の三分の一を占めている第一章「横浜と近代医学の受け入れ」が先ず最も注意を惹くが、こゝは「ヘボンを中心」に（大滝紀雄）・「シモンズ―横浜近代医学の先駆者」（荒井保男）・「英国医学の教師―ウィリアム・ウィリスと横浜」（中西淳朗）・「幕末・明治初期の感染症対策―ジョージ・B・ニュートンの二大事業」（深瀬泰旦）・「開港期の日本を愛した医師エルドリッジ」（衣笠昭）・「近代歯科医学と横浜」（岡田敏）・「横浜医史跡めぐり」を編纂して（井出研）で構成されている（以下も含めて括弧内敬称略）。

各項の内容には最新の研究成果を盛った箇所も見受けられ、興味深く読み通せる。ただ、記述の精粗が一樣でない恨みがないとは言えないが、これは望蜀の言というものである。

「横浜の医療史」の章（約五〇頁）は伝染病発生例・防疫・看護・放射線関係がそれぞれ時任直人・杉田暉道・吉川幸子・田中利彦の諸氏によって述べられている。また「横浜の医療と市立大学」の章（約四〇頁）は「十全病院」（大滝紀雄）・「医学部の歩み」（三杉和章）から成る。

本書の最もユニークな点の一つは、「横浜の医学史を知るために」という副題を持った「医学史紹介」が一般読者の予備知識のために、しかも終章として配置されていることである。

「日本の医学」（蔵方宏昌）・「知ってほしい西洋医学の歴史」（大村敏郎）・「中国・アジアの医学」（杉田暉道）・「アメリカ

医学史警見」(大島智夫)という分担になっている。それぞれが二〇頁ずつという、これは正に「力わざ」というほかあるまいが、ベテラン諸家がそれぞれにこなしておいでである。

なお、付章として三〇頁近い「わが国における医学資料館」(井出研)がある。これは横浜市立大医学部同窓会関係者の間で「横浜医学資料館」の構想があつて調査されたもので、不完全と断つておられるが、この分類紹介は極めて有益な資料であり、担当者の労を多としたい。

ちなみに、本書の先行書としては、今回の執筆者の一人でもある大滝紀雄氏が一九八三年に本学会の学術大会を主宰された際の大会長講演を拡大して編述された『かながわの医療史探訪』(二七六頁、同年、秋山書房)がある。題名が示唆する通り脚も十分に駆使して伸び伸びと執筆されたまことに好ましい一冊であるが、残念ながら絶版になつて久しい。

それだけに価格格的にも入手し易い形で本書が刊行されたのは喜ばしいことである。ただ、版元が一般出版社とは異なるので、編者の一人である杉田氏にお尋ねしたところ、左記の販売店をわざわざ調査してご教示頂いた。いずれも定価は送料込みとのことである。

- ◇横浜市大生活協同組合(〒二三六〇〇二七・横浜市金沢区瀬戸二二二一・電話〇四五七七八一〇一九九・代表)
- ◇横浜市役所内市民情報センター(〒二三一〇〇一七・同市中区港町一一一・電話〇四五一六七一一二二二)
- ◇横浜総合医学振興財団(〒二三六〇〇〇四・同市金沢区福

浦三一九・電話〇四五七七八一八六三五)

(三輪 卓爾)

〔発行〕横浜市立大学一般教育委員会 発行元・横浜市立大学
教養部事務局 〒二三六〇〇二七・横浜市金沢区瀬戸二二
一、電話〇四五七七八七二〇五五、一九九七年八月、A
5版三〇四頁、一五〇〇円〕

森 納 著

『歯の民俗―民間信仰・俗信・くすり―』

歯の神様・仏様 あこなし地蔵』

この本は郷土史の研究から民俗学に興味を持った著者が、少年の頃の体験からふと「歯痛に対する俗信、迷信が多く生まれ、身近な地藏や薬師如来などが信仰の対象になつていたのに、それが急速に衰退したのは何故か」と立ち止まつた所から出発して、それを手堅い民俗学の基本的な手法で追いつめて書いた本である。本当はその面では全くの素人の私などが紹介するなどと言うのは少し気が引けるくらいがっかりしたものであるが、それを承知で敢えて紹介する。

先ずこの本は全部で二二五の「歯の神様」、「歯の仏様」(地藏さま、薬師如来、観音菩薩、人々)、「その他の歯痛信仰」、「首から上の病氣祈願」、「諸病平癒祈願の神仏」の実物について、北は岩手県から南は熊本県までに互つて実際に著者が足で確かめて誌している。

机の上でインターネットで集めた情報とは違って、総ての